

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201454		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里 たんぽぽ		
所在地	長崎県佐世保市長畑町450-1		
自己評価作成日	平成21年10月25日	評価結果市町村受理日	平成22年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5-3 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、その人が自分らしく普通に生活出来るように支援している。職員自身も環境の一部である事を常に念頭においている。又、人生の大先輩である敬いの念を持って接している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を基に具体的で分かりやすい介護目標がたてられており、職員は常に意識しながらのケアを行っている。外部研修の積極的参加や、併設の事業所を含めた、事例を用いた内部研修、勉強会も積極的に行われている。地域との関係については運営推進会議や市役所の支所への相談を通じて協力体制を築いているとともに、地域行事への参加や交流などを行い利用者が地域とつながりながら暮らしていけるよう支援をしている。職員の会話や行動についても利用者の生活環境の一部として考えおり、利用者が穏やかに過ごせるように気を付けている。利用者の表情、事業所から伝わってくる雰囲気は穏やかなものである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関や談話室に掲示しており、日々目にする事ができ、理念に基づいた目標も具体的に掲げているため、常に意識し介護に反映できている。	理念に沿って具体的な介護目標をたてており、倫理規定には地域住民との連携によりサービス向上を目指す旨の記載がある。理念は玄関や職員の休憩場所などに掲示され、日々意識するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や公民館祭りに参加したり、保育園児との交流も定期的に行っている。	近くの保育園との交流や中学生の職業体験の受入、地域の清掃活動などに参加している。近くの商店の方が配達で事業所を訪れる際などは、なじみの関係が出来ており、挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の要望など、事業所で話し合い、貢献できるよう取り組んでいる。 地域の清掃、草刈りの前の空き缶拾いに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて近況報告を行い、助言や地域の皆様からの意見なども聞くことができ、サービスの向上につながっている。	運営推進会議ではさまざまな議題について話し合わせ、会議の場で地域の方々に運営について協力をお願いすることも多い。外部評価の報告は行われているが、改善にむけての話し合いは行われていない。	外部評価で明らかになった課題の振り返りの場として運営推進会議を活用し、改善策を話し合いサービス向上に活かしていく事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域での取り組みや参加方法など絵を支所の方に相談する事が多くなった。	利用開始を行う際など、担当職員と連絡を取り合ったり、市役所の支所の職員には、地域との関わり方について相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム全体で身体拘束委員会を立ち上げている。 定期的に行っている勉強会においてスタッフ全員の理解が出来ており、拘束0(ゼロ)に向けたケアを実践している。	定期的に、身体拘束や高齢者虐待防止法、認知症ケアなどについて勉強会を行い、実際の事例を用いて検討をしている。やむを得ない場合の基準は家族の同意を取るなどマニュアルに明確にされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を実施し、意見交換等も行われているし、外部での研修にも参加している。		

グループホーム みのりの里 たんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在支援者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者やご家族の思いを良く聴き説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい雰囲気・環境作りに努め、利用者の状態に気を配り、こちらから話を聞いた場合によっては1対1で話せる場を持っている(家族へも同じ)	利用者に対しては穏やかに接し、話しやすい雰囲気、環境を作っている。家族の面会時には必ず声掛を行い、利用者の日々の様子を伝えるとともに、意見要望がないか話し、実際に出た意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に意見交換を行ったり必要な時には時間を設け対応している。	月に1回行われるミーティングや申し送り、日々のケアを行うなかで意見交換が行われている。職員は管理者や上司等から入居者受入や職員採用等運営について意見を求められることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングや申し送り時等に調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や内部での研修に積極的に参加するよう指導し、意見交換も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の管理者会議に出席し交流の機会を持ち、意見交換などしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントやフェイスシートを活用しスタッフからの情報や傾聴し共感するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しを聞く機会を設け、常に不安や要望などないかお尋ねし、想いを受け止め安心して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人を含め家族と話し合いの場を持ち体調の変化などその時の状態に合わせた対応ができる体制づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として接する事を心かけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて意見や要望を聞いたり相談したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が元気に活気に満ちた生活を送るために家族の協力は必要不可欠なので面会に来やすい雰囲気作りをしている。	利用開始時には入居申込書により、家族構成等の把握がなされ、日々のケアを行う中で利用者の会話等から馴染みの関係の把握を行い、以前からの生活習慣が変わらないよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等への参加を必ず呼びかけ関わり合いを大切にし、お互いに支え合って生活できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	つながりを大事にし、行事などのお知らせをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の想いに添えるように努めている。本人本位に考え良い方向へ向かうようにスタッフ、家族を交えて話し合い検討している。	日々のケアを行っていくなかでの、利用者との会話や、利用者同士の会話のなかから希望、意向を汲み取るようにしている。また家族から昔の生活習慣等を聞き、本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族に話しを聞く機会を設けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った生活リズムが送れるように個々の状態を把握しチームケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聴き、その人に合った介護計画を作成するようにしている。スタッフ間での話し合いやモニタリングも実践している。	本人や家族の意見を聞き計画を立てるようにしている。家族意見は面会時や電話などで聞くようにし、随時の見直しも行われている。見直しされた介護計画は作成し直され、職員はいつでも確認出来る状態である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やバイタル表等の記入や申し送りノートを活用し、情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食やドライブや他ユニットへ出掛け交流を持っている。ヘルパー養成等の受け入れや地域の学生さんの体験学習の受け入れも行っている。		

グループホーム みのりの里 たんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力を得て避難訓練をしたり、救急救命法や応急手当の方法等の実習指導をして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である梶田医院での受診、往診を受け主治医との連携に努めると共に本人やご家族の希望される医療機関での受診もされている。	利用開始の際本人、家族にかかりつけ医について話し合い、希望される医療機関での受診支援を行っている。骨折の場合や急変時等にはどの医療機関に連絡をとるかの把握も利用者毎に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と常に情報交換を行い連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ほとんどの入院が協力医への入院となっており、面会や情報交換を行いながら、早期退院へ向けて連携が取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より本人家族の意向をお尋ねしている。又、その状態に至った時にも再度確認と説明を十分に行い意向に沿った支援になるように取り組んでいる。	「看取りに関する指針」を作成し、医師を含めた看取り介護に関する具体的支援について、重度化した場合のケアについての研修や勉強会に参加して、対応力の向上を目指し、体制を整えていくことを期待したい。	重度化した場合のケアについての研修や勉強会に参加して、対応力の向上を目指し、体制を整えていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフが普通救命講習Ⅰを受講して備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防・地域の方と合同で夜間想定防災訓練を実施し、有事の際の支援ご協力をお願いしている。	年に2回、併設のデイサービスやグループホームと合同で防災訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行われ、消防署や地域住民の参加がある。運営推進会議では有事の際の協力を地域にお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方に対しての言葉使いや態度に日々配慮するよう気をつけて支援している。又、記録等の個人情報の取り扱いも特定の場所に保管、管理している。	言葉かけや対応に関しては語尾やトーンの使い方に気を付けるとともに、。日常的に管理者や職員同士で気づきを話し合い、意識するようにしている。秘密保持については職員採用時に宣誓書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傍に寄り添い、静かに優しく語りかけ自分の思いが言えるよう又、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフが利用者本位である事を理解し、その人らしく生活できるように希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大事にし、近所にある顔なじみの美容室を利用して、一人ひとりとコミュニケーションをとりながらしてくださっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの残存能力や、その人のしたい事、出来る事に合わせて無理強いせずにお手伝いをお願いしている。	簡単な調理や食事の準備を一緒に行い、利用者毎に嗜好調査を行うなどして食事を楽しむことが出来る支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食べる量や水分量を把握し記録している又、その人の状態に合わせた食事形態になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じて、声かけや支援を実施、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、失禁ばかりの方がトイレでの排泄が間に合うようになった。	排泄チェックシート表を活用し、排泄パターンの把握を行い、誘導することによってトイレでの排泄支援を行っている。失敗した場合でも羞恥心に配慮し不快感を与えないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握に努め、個々の嗜好に合わせて提供し、体操なども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の際コミュニケーションをとりながら楽しみの入浴として考えている。	基本的な入浴日は月、水、金で時間帯も決まっているが、本人の希望で入浴時間や順番等を変更するなど個々にそった支援を行っている。必ず納得してから入浴してもらうようにし、負担感をなくす工夫をおこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や体調に合わせての夜間の過ごし方を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	やくじょうやお薬ノートを活用している。掛かりつけ薬局と連携・相談ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の大事な一日と捉えスタッフと共に笑顔で生活をしていくように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画の中だけでなく、体調、天候を考慮して出掛ける機会や触れ合いを考えて支援している。	散歩や買い物に行きたい等の外出希望は利用者からはあまりないので、上手に声かけを行いながら、外出できるよう支援を行っている。行事で外出する際の頻度は車いすの利用者もかわらない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物を自分で考え相談しながら買った り、施設の物の購入も一緒にしてもらうよう 支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	電話があると生き活きとして話される。又、 手紙への返事も促している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすくする為に、その場に応じた配慮 をしている(カーテン、ラジカセ、テレビの音 量など)	利用者のその人ごとのお気に入りの場所を 把握し、日射しや温度、音や換気などに注意 して居心地よく過ごせるよう支援している。ま た職員同士の声のトーンにも気を付けてい る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工 夫をしている	椅子の配置についてもよく検討し対応してい る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、 本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	使い慣れた物や愛着のある物を、今必要な 物を相談し持ち込んでもらっている。	居室への持ち込みは本人が使い慣れた馴染 みのものを持ってきてもらっている。居室につ いての環境作りは事業所、家族の意向を優 先するのではなく、本人の意向を最優先にし ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況に合わせて安全かつ 安心して生活できるように支援している。		